

東大和市の“今”を伝えたい・・・

2023年2月26日

もと市議会議員

和地ひとみレポート No.467

令和5年度 市長施政方針

財政状況は厳しさを増す予測。一方で明るい話題も



■引退表明後の施政方針演説

…2月22日から始まった東大和市議会定例会の初日の本会議で、尾崎市長は『令和5年度 市長施政方針』演説を行いました。

…市政運営は、予算や決算をはじめ、基本的に“年度”で区切って行っていますが、市議会の定例会は“年”を単位として数えられます。よって、今、開催されている市議会定例会は『令和5年第1回定例会』となります。

…毎年、この第1回定例会（開催期間は毎年、概ね2月下旬から3月中旬以後まで）の初日の本会議では、4月から始まる翌年度の施政方針を表明する演説を市長が行うこととなっています。そして、その方針から組まれた翌年度の予算について審査する予算特別委員会も第1回定例会の会期中に開かれます。

…尾崎市長は、12月に開かれた令和4年第4回市議会定例会の中で、今任期満了（令和5年4月末日）で退任することを表明。よって、来年度の最初の1か月のみ尾崎市長は市政をリードすることとなり、5月からは新たな市長が市政を担うこととなります。

…しかし、施政方針を基とする予算は昨年秋から編成が始まっており、その予算を審査する前に、市議会に対し施政方針を表明する必要があるため、今年の第1回定例会でも市長が施政方針を示しました。

…ただし、今回の市長施政方針では、冒頭と末尾で、尾崎市長は自身が4月末日で退任することを念頭に、そのことに対し、以下のとおり触れられました。

【令和5年度 市長施政方針より】

～冒頭～

私は、先の市議会におきまして、来る4月30日をもって、任期満了により、市長を退任することを表明いたしました。平成23年5月に市長に就任して以来、3期12年の間、市民の皆様の負託に応えるため、全力で市政運営に取り組んでまいりました。これまでの施政運営に対しまして市議会ならびに市民の皆様のご支援、ご協力につきまして、心より感謝申し上げます。

こうした中ではありますが、現在でも新型コロナウイルス感染症による市民生活への影響が続いており、また、将来に目を向けますと、少子高齢化や人口減少の更なる進展などにより、今後、行財政運営は厳しさを増すことがみこまれております。そのため、現在の市民の民様の生活を支える取組、そして、未来を担う子供たちのための取組など、これまで続けてまいりました市政の歩みを止めることはできません。

市長を退くまで、残り僅かな期間であります。最後まで全力を尽くし、次代に市政を引き継ぐことが、私に課せられた責務であると考え、この令和5年第1回市議会定例会の開会にあたりまして、令和5年度の市の主要な取組を申し述べ、市議会ならびに市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

～末尾～

私は、市長就任以来、今日までの取組により、市が将来に向かって活力あるまちとして発展し続けていくための礎を築くことができたものと考えております。また、恒久平和の実現を願い、旧日立航空機株式会社変電所の保存など、平和の尊さを次世代に引き継ぐ取組などを実施することができました。

今後、市の財政状況は、さらに厳しさを増すことが見込まれておりますが、時代がどのように変化しても、今の子ども達、これから生まれてくる子ども達を含めた、将来の市民の皆様のご選択を制限することなく、現在の市民の皆様のご負託に応えていくため、持続可能な街づくりに向けた取組の更なる推進が必要であると考えております。

■市政の大きな方向性は…

…市長は、市議会議員と同様、市民に直接選ばれ、その負託を受けて市政運営を担います。今年4月に行われる統一地方選挙で、東大和市においても、市長選挙と市議会議員選挙が行われ、新たに市民の負託を受けた市長と市議会議員22名が選ばれます。

…この選挙後の市政運営は、新たな市長の方針で行われることとなりますが、一方で、市政運営の基本的な方向性については、総合計画で定めており、基本的には、その指針に沿って進めることとなります。

【総合計画とは】

地方自治体における行政運営の最上位計画。住民全体で共有する自治体の将来目標や施策を示し、全ての住民や事業者、行政が行動するための基本的な指針となるものとされている。行政運営の目的と手段を明確にするため、通常、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層で構成され、それぞれが役割を持っている。

基本構想: 将来目標や目標達成のための基本施策。

基本計画: 基本構想に基づき、各部門における基本施策の内容を体系化した計画。

実施計画: 基本計画で定める施策を計画的に実施するために必要な具体的事業を表す。

(裏面に続く)

…東大和市においては、令和2年(2020年)12月に、まちづくりの指針となる新しい総合計画「輝きプラン」を策定。新しい総合計画の一部である第三次基本構想を市議会の議決を経て策定し、この構想に基づいて、令和4年(2022年)2月に第五次基本計画を策定しています。

【現在の東大和市の総合計画】愛称:輝きプラン

構想期間:令和4年度(2022年度)~令和23年度(2041年度)の20年間

- 基本構想は第3次となり、期間は20年間
- 基本計画は第5次となり、期間は10年間
- 実施計画は毎年度見直し、見直したそれぞれの計画期間を3年間と設定。

概要:第三次基本構想では、市の目指す将来都市像を「水と緑と笑顔が輝くまち 東大和」とし、少子高齢化と人口減少が進展する中であっても(第三次基本構想の構想期間が終了する令和23年度(2041年度)には、現在と比較して約5,000人減少する見込み)、市民がいきいきと活動する、活力あるまちづくり、持続可能なまちづくりを進めることとしている。

…上記のとおり、東大和市では、目標を達成するための具体的な取組について策定される実施計画を毎年見直すこととしています。すなわち、大きな目標を達成するための取組については、毎年、効果や社会的情勢等も考慮し見直しを行うとくことです。

■令和5年度の重要施策は

…施政方針では「重要施策」が示され、そのための取組の大きな方針等が示されます。今回の施政方針では、来年度の重要施策として、以下の5点挙げられました。また、予算案においても、この重要施策ごとの主な事業が示されることとなっています。

【東大和市の令和5年度の5つの重要施策】

- ◆新型コロナウイルス感染症対策
- ◆子ども・子育て支援施策の推進
- ◆健康・高齢者施策の推進
- ◆都市の価値を高める施策の推進
- ◆持続可能な行財政運営等の推進

…これら5つの重要施策に関連する主だった取組などについては、市の判断で実施する事業として、継続的に行うものと、都や国の施策や補助金により期限付きで行うものが混在しています。

…例えば、「子ども・子育て支援施策の推進」でいえば、このレポートの前号(No.466)で取り上げた、市立中学校全校に導入するオンライン英会話レッスンは、市独自の取組。一方で、「高校生等への医療費助成」については、東京都が準備経費と令和5年度からの3年

間は全額補助してくれることが決定している、東京都の事業とも言えます。この東京都の補助については、3年間限定。よって、3年後も継続できるかどうかは、現時点では確定していません。

■気になった事業は

…施政方針の中で、触れられた様々な事業のすべてをここで紹介することはできませんが、今までの趣向とは少し異なる気になった事業、言い方を変えれば“面白い話題”がいくつか示されたので紹介します。

…一つ目は、「二つ池のかいぼりを行う」こと。“かいぼり”(掻い掘り)とは、農作業が終わる冬に、ため池から水を抜き、一定期間干して、清掃、堤や水路の点検補修を行う作業のことですが、近年は、公園などの池で水質改善や外来種駆除を目的に行われる池の水を全部抜くことのように。今回の施政方針の中でも『狭山丘陵に生息する貴重な生き物の保全活動の一環』『生物の多様性の確保に努める』との説明がありました。

…二つ目は、現在も市の狭山緑地にあるフィールドアスレチックに「都内最長。全国でも有数の規模となるローラースライダー」を設置する公園整備事業です。説明では、『より多くの方に親しまれる拠点を目指す』とのこと。多摩湖は2019年3月、日本経済新聞社が実施した「何でもランキング」において、多摩湖が「春風と花を満喫 レンタサイクルで楽しめる桜名所10選」で第4位となっています。また、多摩湖近隣にある東大和市立郷土博物館のプラネタリウムには、メガスター(MEGASTAR)が設置されています。このメガスターは星の数で世界記録を打ちたて、プラネタリウム界に革新をもたらしたもの。東大和市での常設設置は都内では日本科学未来館に次ぐ2館目として話題になりました。

…これらの多摩湖周辺の要素をうまく活用して、市の知名度アップと賑わいの創造につなげていくことで、事業効果はアップするのではないかと思います。

…三つ目は、「テレビ番組の“出張!なんでも鑑定団”の誘致」。説明では『市の認知度の向上のため』とのことでした。今までの経験からして、施政方針などで取り上げたことから、おそらく、概ね、誘致は決定しているのではと推察します。

■What(何をするか)よりHow(どうするか)

…今回の施政方針の中では、様々な取組が示されました。一方で、“財政状況の厳しさは増す”とされています。道や下水道など公共インフラが整備されていなかった時代は「何をするか」が重要でしたが、財政状況が厳しい中、“すべきこと”が明確になっているこれからの時代においては、「どうするか」、すなわち、やり方や工夫が重要な時代になっていると思います。来年度の様々な取組も、「どうするか」で効果が上がるはず。その工夫が必要です。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。3期目の任期3か月を残し、2023年1月末日付で議員辞職。



もと東大和市議会議員

和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP: <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102